

かお・人・interview

2025年10月1日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
熊本港湾・空港整備事務所 所長

佐藤 鉄志氏

SATO Tetsuji

熊本港湾・空港整備事務所は、熊本県内の重要港湾（熊本港、八代港）、本渡瀬戸航路及び熊本空港の整備を進めている。港湾・空港は、物流や人流、地域の経済活動を支える拠点として、重要な役割を担う。近年、気候変動の影響により、これまでに経験したことのない豪雨や土砂災害が多く発生。緊急物資や救援部隊、被災者等の海上輸送力の強化が必要だ。港の機能を最大限活用した災害対応のための物流・人流ネットワークの構築を図る。佐藤鉄志所長に事業の進捗状況や今後の取り組みについて話を聞いた。

Q所長就任にあたっての抱負

熊本は、新たな産業や企業進出、道路網の進展など、九州縦貫経済であったものが全方位に広がりを感じ大きなポテンシャルがあると認識しています。特に道路網が変わると物流も変わり、変化に合わせて将来の港湾・空港のあり方を考えていかなければなりません。インフラは一度切りではありません、社会が必要とする形を目指していきたいと思います。インフラづくりでは、関係者に目的や効果をしっかり伝えることが重要であり、地域に何が必要であるかをアピールしながら、先を見据えていきたいと考えています。

仕事への取り組み方として、最も大事なことは、楽しい雰囲気づくりです。働きやすい職場環境づくりに努めていきたいと思っています。



▲災害支援訓練

Q熊本県や九州地区との関わりについて

入省後はほぼ九州管内でしたが、今回は初めての熊本勤務（これまではプライベートか出張での来熊）。これまで、苅田、下関、博多、唐津、北九州（門司）等で勤務しました。

本局では、管内の港湾計画、予算要求、政策評価、物流分析、クルーズ地域振興等を担当。平成のはじめの頃、熊本県内の港湾計画を担当し、三角港や水俣港の港湾計画策定、八代港の長期構想に携わりました。特に水俣港は、公害防止事業が終わり、埋立地の土地利用計画を担当し、今ではエコパークみなまたとして多くの



▲くまモンポート

人が集い感慨深い(三角西港も同様)ものがあります。

Q 当事務所の紹介

組織構成は、事務所長、副所長(3名)、5課、八代港分室(2課)で構成し、期間業務職員を含め34名の体制となっております。当事務所は熊本県内の港湾と海域を対象に事業の柱は4つあります。

- 港湾整備事業:管内の重要な拠点である熊本港と八代港において、直轄により港湾施設の整備を行っています。

熊本港:昭和49年に重要港湾に指定後、人工島形式で整備(国では物流ターミナルとして、防波堤、岸壁、航路、泊地等を整備)

八代港:昭和34年に重要港湾に指定後、企業立地等も進み、大型船対応の整備(国では物流ターミナルとしての岸壁、航路、泊地のほか、クルーズ岸壁も整備)

- 開発保全航路の保全管理:有明海と八代海をつなぐ本渡瀬戸航路の管理・保全を行っています。
- 空港整備事業:熊本空港において、空港土木施設の整備を行っています。
- 海洋環境整備事業:海洋環境整備船を2隻擁し、有明海、八代海、橘湾(管轄海域3728km²)において、漂流ごみ等の回収と水質・底質調査を行い海洋環境の保全と改善、航行船舶の事故防止に取り組んでいます。

Q 今年度の事業概要について

熊本港は、九州のほぼ中央部に位置し、県経済の中核機能を担う熊本都市圏と直結した物流港湾としての機能を果たすとともに、熊本港と島原港とをフェリー(10便/日・60分)及び高速フェリー(7便/日・30分)で結ぶ海陸交通の重要な結節点であり、令和6年は年間約68.5万人の乗降客(観光客や住民)に利用されています。

港内静穏度を確保するため、防波堤の整備、また、半導体関連貨物の輸入及び移出増に伴うコンテナ取扱貨物量の増大に対応するとともに大規模地震時における海上輸送機能を充実するため、耐震岸壁の整備を進めます。

令和7年度は、防波堤(南)の築造工事や、岸壁(水深7.5m)(耐震)の土砂撤去及びケーソン製作、地盤改良の工事を予定しています。

南防波堤については、これまで長きにわたり新しい技術を駆使して、いよいよ来年度完成を迎えます。最後の見届け人として良いタイミングで来たなと思っています。

八代港は、九州西部の中央部に位置し、中九州地域の物流拠点として経済・産業活動に重要な役割を果たしています。また、令和2年3月にくまモンポート八代が完成し、九州中央の大型クルーズ船の受入拠点としての役割も担います。令和7年度は大型船入出港に



▲八代港の大型穀物船入港



▲流木回収



▲本渡瀬戸航路

本渡瀬戸航路の航空写真▶

必要な航路(水深14m化)の浚渫にて発生する土砂の受入れ先となる大築島土砂処分場の護岸整備を進めます。

本渡瀬戸航路は、安全で快適な航路維持のため、老朽化した航路護岸の改良工事、熊本空港では、台風や豪雨時の浸水対策として、排水機能の強化工事を進めます。

Q地域との連携・協働について

経済を支えるインフラとしての港湾(空港)は、密接に関連する地域との連携、協働は重要であります。経済活動や災害時に地域を支える役割を担う責任があり、「みなと」の機能を最大限活用した物流・人流ネットワークを「命のみなとネットワーク」と名付け、災害時の緊急物資や救援部隊、被災者等の海上輸送力を強化していきます。



▲みなまた港フェスタ

管轄区域や本渡瀬戸航路における不法占用事案や船舶航行の支障となる障害物情報の通報制度、海道見守り隊、により官民が連携した保全活動を行っています。地域活性化に資する「みなと」を核としたまちづくり推進を目指す「みなとオアシス」について、熊本県内では4カ所登録されており、イベント等を通じて地域・観光振興にも寄与していきたいと思っています。



Q地域建設業への要望・メッセージ

地域経済やインフラの発展・維持、災害対応の面で欠かせないパートナーです。インフラは、常に将来を見据え、時代や環境の変化に対応していかなければなりません。将来の国土、国づくりには、行政と建設業界との連携がますます重要になってきます。

担い手の確保、地域における技術の伝承といった課題についても、地域に精通した建設業界と一緒に取り組んでいきたいと思っています。

Q趣味や健康法について

趣味は山登り(主に低山)、音楽鑑賞です。山登りは年を取ってから始めて10年位で、ひとりゆっくり、自分のペースで行えるのが魅力ですね。健康的にもいいですし、体力もつきます。最近行けてなくてウズウズしています。それもあって、普段なるべく歩くように心がけています。

座右の銘ではありませんが、基本的には前向きにポジティブに、ネガティブだと下ばかり向いてしまいます。明るく笑いを持つと、視野も夢も広がり、働きやすい職場づくりにもつながっていると思います。

プロフィール



大分県出身、55歳

H2年 4月 旧運輸省入省(第四港湾建設局採用)

H27年4月 唐津市 都市整備部 みなと振興課長

H29年4月 九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所 第二工務課長

R2年 4月 九州地方整備局 港湾空港部 港湾計画課長補佐

R4年4月 九州地方整備局 北九州港湾・空港整備事務所 第一工務課長

R5年4月 九州地方整備局 港湾空港部 港湾計画課長

R6年4月 九州地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室長

R7年4月 現職